

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年11月13日

上場会社名 株式会社アルファポリス 上場取引所 東
コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 梶本 雄介
問合せ先責任者 （役職名） 取締役兼管理本部本部長 （氏名） 大久保 明道 TEL 03-6277-0123
半期報告書提出予定日 2025年11月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	7,989	—	1,695	—	1,716	—	1,029	—
2025年3月期中間期	—	—	—	—	—	—	—	—

（注）包括利益 2026年3月期中間期 1,029百万円（－％） 2025年3月期中間期 一百万円（－％）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	35.43	—
2025年3月期中間期	—	—

（注）1. 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の数値及び対前年中間期増減率は記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	18,475	14,331	77.6
2025年3月期	—	—	—

（参考）自己資本 2026年3月期中間期 14,331百万円 2025年3月期 一百万円

（注）2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、2025年3月期の数値は記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	0.00	—	14.00	14.00
2026年3月期	—	0.00			
2026年3月期（予想）			—	24.00	24.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,100	—	3,720	—	3,760	—	2,330	—	80.18

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
2. 業績予想の修正については、本日公表の「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」をご覧ください。
3. 当社は2026年3月期中間期より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 1社 (社名) 株式会社WHITE FOX、 除外 1社 (社名) -

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 (連結範囲の重要な変更)」をご覧ください。

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 有

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2026年3月期中間期	29,062,200株	2025年3月期	29,062,200株
2026年3月期中間期	996株	2025年3月期	957株
2026年3月期中間期	29,061,204株	2025年3月期中間期	29,061,390株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

(注) 当社は、2025年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、期中平均株式数を算定しております。

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	5
中間連結損益計算書	5
中間連結包括利益計算書	6
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(連結範囲の重要な変更)	8
(会計方針の変更に関する注記)	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(企業結合等関係)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

当社は、株式会社WHITE FOXの全株式を取得し、子会社化したことにより当中間連結会計期間より中間連結財務諸表を作成しておりますので、前年同中間連結会計期間及び前連結会計年度末との比較分析は行っておりません。

なお、みなし取得日を2025年9月30日としており、当中間連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しておりますので、当中間連結会計期間に係る中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書に同社の業績は含まれておりません。

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で緩やかな回復が続いているものの、米国の通商政策の影響や物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響等が我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また、金融資本市場の変動等の影響が懸念される等、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、2025年上半期(1月から6月まで)の紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年同期比でマイナスとなりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2025年上半期の紙と電子を合算した推定販売金額は前年同期比2.1%減の7,737億円となり、その内訳は、紙の出版物については同5.4%減の4,926億円、電子出版については同4.2%増の2,811億円と、紙の市場が前年同期を下回った一方で、電子出版市場の堅調な拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

以上の活動の結果、当中間連結会計期間の売上高は7,989,168千円、営業利益は1,695,739千円、経常利益は1,716,353千円、親会社株主に帰属する中間純利益は1,029,621千円となりました。

当社グループの報告セグメントは、従来「出版事業」の単一セグメントでありましたが、当中間連結会計期間より、株式会社WHITE FOXを連結子会社化したことに伴い、報告セグメント「アニメ制作事業」を追加しております。なお、当中間連結会計期間においては貸借対照表のみ連結しており、「アニメ制作事業」における売上高及び利益または損失は発生していないため、経営成績の概況の記載を省略しております。

当中間連結会計期間における出版事業のジャンル別の概況は以下のとおりであります。

(出版事業)

① ライトノベル

当中間連結会計期間の刊行点数は前年同期を上回る178点(前年同期比12点増)となりました。

各書籍の売れ行きにつきましては、2024年7月にTVアニメ化された『異世界ゆるり紀行』の続刊やコミカライズが好評を博している『継母の心得』の続刊が好調に推移しました。また電子書籍販売につきましては、大手電子ストアにおいて実施している1話単位の販売や女性向け小説の販売が引き続き好調に推移し、当ジャンルの売上を牽引いたしました。

結果、当中間連結会計期間の売上高は前年同期を上回る着地となりました。

② 漫画

当中間連結会計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る106点(前年同期比21点増)となりました。

各書籍の売れ行きにつきましては、2025年10月からアニメ放送を開始する『最後にひとつだけお願いしてもよろしいでしょうか』や紙書籍最新巻が初版8万部発行となる大ヒット作『継母の心得』等の人気シリーズの続刊が引き続き好調に推移いたしました。また、漫画と親和性が高い電子書籍販売につきましては、2025年8月から各電子ストアと連携して実施した「アルファポリス創業25周年記念キャンペーン」施策が奏功したこと等から、大幅な売り伸ばしを図ることができました。

結果、当中間連結会計期間の売上高は前年同期を大幅に上回る着地となりました。

③ 文庫

当中間連結会計期間の刊行点数は前年同期を上回る105点(前年同期比9点増)となりました。

「キャラ文芸」「歴史・時代小説」「児童書」等、様々なジャンルで開催するWebコンテンツ大賞から、受賞作等を中心に優秀な作品を複数刊行し、取り扱いジャンルの強化及び拡大に注力してまいりました。

結果、当中間連結会計期間の売上高は前年同期を上回る着地となりました。

④ その他

当中間連結会計期間の刊行点数は2点(前年同期比1点減)となりました。

当ジャンルにおいては、ビジネス書である『中小・ベンチャー企業「ぼっち人事」でも0から学べる人事の本』を刊行する等、更なる業績拡大及びポートフォリオ最適化の観点から幅広いジャンルにおける書籍刊行に努めてまいりました。

しかし、刊行点数が前年同期から減少したこと等により、当中間連結会計期間の売上高は前年同期を下回る着地となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当中間連結会計期間末の流動資産は15,852,577千円となりました。主な内訳は、現金及び預金が10,699,373千円、売掛金が4,059,011千円であります。

固定資産は2,622,792千円となりました。主な内訳は、のれんが1,265,067千円、投資その他の資産が893,191千円であります。

(負債)

当中間連結会計期間末の流動負債は3,976,399千円となりました。主な内訳は、未払金が1,429,994千円、その他が968,065千円、未払法人税等が723,511千円、返金負債が503,524千円であります。

固定負債は167,808千円となりました。主な内訳は、長期借入金が105,675千円、その他が23,396千円であります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産は14,331,161千円となりました。主な内訳は、利益剰余金が12,614,352千円であります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、10,674,343千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは609,728千円の収入となりました。主な増加要因は、税金等調整前中間純利益の計上によるものであります。また、主な減少要因は、売上債権の増加及び法人税等の支払によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは1,080,832千円の支出となりました。主な減少要因は、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは421,823千円の支出となりました。主な減少要因は、配当金の支払によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績につきましては、当中間連結会計期間において株式会社WHITE FOXを子会社化したことに伴い、通期の連結業績予想を公表いたしました。

詳細につきましては、本日(2025年11月13日)公表いたしました「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、連結業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位: 千円)

	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	10,699,373
売掛金	4,059,011
製品	376,350
仕掛品	603,914
その他	113,927
流動資産合計	15,852,577
固定資産	
有形固定資産	403,383
無形固定資産	
のれん	1,265,067
その他	61,150
無形固定資産合計	1,326,217
投資その他の資産	893,191
固定資産合計	2,622,792
資産合計	18,475,369
負債の部	
流動負債	
買掛金	71,812
1年内返済予定の長期借入金	26,652
未払金	1,429,994
未払法人税等	723,511
賞与引当金	98,667
投稿インセンティブ引当金	154,171
返金負債	503,524
その他	968,065
流動負債合計	3,976,399
固定負債	
長期借入金	105,675
繰延税金負債	38,736
その他	23,396
固定負債合計	167,808
負債合計	4,144,207
純資産の部	
株主資本	
資本金	863,824
資本剰余金	853,824
利益剰余金	12,614,352
自己株式	△839
株主資本合計	14,331,161
純資産合計	14,331,161
負債純資産合計	18,475,369

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書
(中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	7,989,168
売上原価	1,868,777
売上総利益	6,120,391
販売費及び一般管理費	4,424,652
営業利益	1,695,739
営業外収益	
受取利息	9,181
前払式支払手段失効益	4,753
為替差益	7,131
営業外収益合計	21,065
営業外費用	
支払利息	269
その他	181
営業外費用合計	451
経常利益	1,716,353
税金等調整前中間純利益	1,716,353
法人税等	686,732
中間純利益	1,029,621
非支配株主に帰属する中間純利益	—
親会社株主に帰属する中間純利益	1,029,621

(中間連結包括利益計算書)

(単位: 千円)

当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)	
中間純利益	1,029,621
中間包括利益	1,029,621
(内訳)	
親会社株主に係る中間包括利益	1,029,621
非支配株主に係る中間包括利益	—

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前中間純利益	1,716,353
減価償却費	18,240
賞与引当金の増減額(△は減少)	△9,096
投稿インセンティブ引当金の増減額(△は減少)	3,561
返金負債の増減額(△は減少)	△12,042
受取利息及び受取配当金	△9,181
支払利息	269
売上債権の増減額(△は増加)	△287,552
棚卸資産の増減額(△は増加)	△65,465
仕入債務の増減額(△は減少)	11,223
未払金の増減額(△は減少)	297,160
その他	△234,953
小計	1,428,518
利息及び配当金の受取額	9,181
利息の支払額	△269
法人税等の支払額	△827,701
営業活動によるキャッシュ・フロー	609,728
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△2,014
無形固定資産の取得による支出	△57,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△956,510
出資金の払込による支出	△134,855
出資金の回収による収入	69,546
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,080,832
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△13,326
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,585
自己株式の取得による支出	△54
配当金の支払額	△406,857
財務活動によるキャッシュ・フロー	△421,823
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△892,927
現金及び現金同等物の期首残高	11,567,271
現金及び現金同等物の中間期末残高	10,674,343

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(連結範囲の重要な変更)

当中間連結会計期間において、株式会社WHITE FOXの全株式を取得して連結子会社化したため、連結の範囲に含めております。

なお、みなし取得日を2025年9月30日としており、当中間連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

(会計方針の変更に関する注記)

(中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲の変更)

従来、キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)の範囲については、「手許現金、随時引き出し可能な預金」としておりましたが、当中間連結会計期間より、「容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期的な投資」を資金の範囲に含めることとしました。

この変更は、株式会社WHITE FOXの子会社化に伴い、同社が保有する定期預金を適切に連結キャッシュ・フロー計算書へ反映させるために行ったものであります。

なお、当社は当中間連結会計期間より中間連結キャッシュ・フロー計算書を作成しておりますので、遡及適用は行っておりません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの変更に関する事項

当社グループの報告セグメントは、従来「出版事業」の単一セグメントでありましたが、当中間連結会計期間より、株式会社WHITE FOXを連結子会社化したことに伴い、報告セグメント「アニメ制作事業」を追加しております。なお、当中間連結会計期間においては貸借対照表のみ連結しており、「アニメ制作事業」における売上高及び利益または損失は発生していないため、記載を省略しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

当中間連結会計期間において、株式会社WHITE FOXの全株式を取得し、連結の範囲に含めております。これに伴い、「アニメ制作事業」においてのれんを計上しております。当該事象によるのれんの増加額は1,265,067千円であります。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社WHITE FOX

事業の内容 アニメーション制作事業、IP関連事業、イラストレーター等の育成事業

② 企業結合を行った主な理由

インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

また、当社は出版事業のみに留まらず、出版事業により蓄積された自社IPを活用したアニメ化等のメディア展開、グッズ販売、ゲーム事業等の多角的な事業展開を目指しており、特に「アニメビジネスの拡大」については当社の中期重点戦略と位置付けたうえで、豊富な自社IPのアニメ化による継続的なメディア展開やアニメ製作に対する出資比率の引き上げ等を積極的に推進しております。

株式会社WHITE FOXはアニメ制作を一気通貫で手掛ける制作スタジオであり、『Re:ゼロから始める異世界生活』シリーズ等の知名度の高いテレビアニメの制作実績を持ち、その制作能力と技術力の高さにおいて、アニメ業界内外で広く認知されています。

昨今、アニメ業界の市場規模は拡大を続け、高品質な映像制作に対するニーズが高まっている一方で、優

秀なアニメーターや高度な制作ノウハウを有するアニメ制作会社は不足傾向にあります。

この度、当社が株式会社WHITE FOXの株式を取得し当社の連結子会社とすることにより、当社グループ内において映像制作を行う体制が構築され、当社の豊富なIPを株式会社WHITE FOXの高度な制作技術で映像化することが可能となります。

これにより、当社IPのアニメ化の更なる加速、クオリティの高いアニメ映像による海外市場を含めた新たなファン層の獲得、当社及び当社作品の認知度の向上等が見込め、当社の中期重点戦略である「アニメビジネスの拡大」の実現に大きく寄与するものと判断し、株式会社WHITE FOXの株式取得を決定いたしました。

③ 企業結合日

2025年7月31日(みなし取得日 2025年9月30日)

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100.0%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものであります。

(2) 中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

みなし取得日を2025年9月30日としているため、当中間連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しており、当中間連結会計期間に係る中間連結損益計算書に被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	1,200,000千円
取得原価		1,200,000千円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 90,836千円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

① 発生したのれんの金額

1,265,067千円

なお、上記の金額は、当中間連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

② 発生原因

主として今後の事業展開により期待される将来の超過収益力であります。

③ 償却方法及び償却期間

10年間にわたる均等償却

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。